

青木家から寄贈された石黒信由考案の測量器具「軸心磁石盤」



して遺品展と午前10時、午後二時の二回講演会が開かれる。太田住職は「今は宗教と生きる尊厳を励ましを感じ

心が問われている時代。遺品や作品を見ることで、具体的に宗派を超えて真実に

江戸時代の和算学者

石黒信由の磁石盤寄贈

新湊の青木さんが市へ 旧朴木村の古文書も

「計画中の博物館収蔵品 寄贈した。に加えてほしい」と新湊市 青木家は江戸時代、朴木村の地主で代々肝煎役を務める江戸時代の和算学者石黒信由考案の測量器具「軸心磁石盤」と旧朴木村の古文書「村御印」を新湊市へ

器の中から、信由が江戸後期に作製したと推定される磁石盤と古文書を市の展示品協力要請に「たえて提供した。磁石盤は縦五十センチ、横六十センチの持ち手付き器具で、

三百六十度の目盛りと磁石大小二個が付いている。博物館建設委員の楠瀬勝富大名誉教授の鑑定によると、高樹文庫に一台ある軸心磁石盤(県指定文化財)と同種のものでみられる。古文書の村御印には寛文十(一六七〇)年、加賀藩が領内の全村に発給した年貢割り付け状が書き込まれており、肝煎が大切に保管していたもので、貴重な歴史資料としてい

同家にいくつか残る測量機